



写真2／大型の電光掲示板では、試合に関するさまざまな情報や映像を掲示します



写真左／客席の上は膜屋根が張られているので、雨天時も安心して観戦できます
写真右／黄色の椅子が並ぶスタンド。ところどころに入る灰色が、アクセントになっています



写真3／大谷石の銘板には、「いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会」への寄付で賛同された個人名や企業名が刻まれています

真2)され、観戦をさらに楽しいものにする情報や画像が映し出されます。
スタジアム南側から通路が伸びており、とちぎファミリーランドの横を通るスロープ構造になっています。その近くには新たにバス停が設置されて、交通アクセスの利便性も高くなっています。
内装には県産材を使用し、木のぬく

もりを生かしたものとなっています。また宇都宮市を象徴する「大谷石」も使われています。大谷石は内装だけでなく、寄付の銘板にも使われるなど、さまざまな場所で見ることができます（写真3）。
スタジアム内にはチーム控室や更衣室、ウォームアップエリア、会議室などがあります。またアスリートの健康やトレーニング

グなどをサポートする「とちぎスポーツ医学センター」や、陸上競技などで雨天時に使う走路なども設置されています。
オープンして約1年、コロナ禍の影響もありましたが、来年は国民体育大会および全国障害者スポーツ大会が開催されますので、今まで以上に注目されることになるでしょう。

緑豊かな総合運動公園の中なので、県民の散歩やジョギングコースとしても人気が高まっており、取材当日にもたくさんの方々がジョギングなどを楽しまれました。
ゲートから中は一般開放はしていませんが、周辺を散策するだけでも楽しめるのではないのでしょうか。
ぜひ一度訪れてみてください。

ゲート付近の外観。A～Hの7ゲートがあり、それぞれの近くにトイレが設置されています



宇都宮に誕生した新施設 共通点は開放感

カンセキスタジアムとちぎ・ベルテラシェ大谷・ミナテラスとちぎ

緊急事態宣言が解除された昨今、これからの地域活性化を担う施設が徐々に増えています。宇都宮に誕生した「カンセキスタジアムとちぎ」「ベルテラシェ大谷」「ミナテラスとちぎ」は、いずれも開放感のある施設です。今回は、写真とともにその概要をご紹介します。

「カンセキスタジアムとちぎ」

宇都宮市南部にある栃木県総合運動公園は、その名の通り陸上競技場や野球場、武道場などさまざまな運動施設が集まった、県内スポーツの中心地です。

昨年、ここに新たな運動施設が誕生しました。平成29年に着工し、3年がかりで完成した栃木県総合運動公園陸上競技場兼サッカー場です。(株)カンセキが命名権を取得し、「カンセキスタジアムとちぎ」の名前で広く親しまれています。

鉄筋コンクリート造り、4階建ての本スタジアムは日本陸上競技連盟第1種公認の陸上競技場です。国際大会を開催することも考慮に入れて建設されました。全天候型舗装400mトラックが9レーンあります。

また陸上競技以外にも、Jリーグスタジアム基準に則ったサッカー場（天然芝1面、ピッチは105m×68m）も整備しており、すでに何度もサッカーの試合が開催されています。

スタンドには観客席が約2万5000席あります。どの席に座っても開放感と臨場感あふれるスポーツ観戦ができるよう、上部スタンドの傾斜は35度になっています。もちろん車椅子席の設置など、バリアフリーにも配慮しています。

スタンド席は鮮やかな黄色が中心で、上

部座席には灰色の席もミックスされて、深みのある景色を生み出しています。バックスタンドの最上層には特産品の「いちご」の模様と「とちぎ」の文字が、赤い座席によって描かれています（写真1）。県外から来た観客にも一目で栃木県のイメージが伝わります。

また、大きな電光掲示板も設置（写

写真1／バックスタンドにはイチゴの絵と「とちぎ」の文字。これは椅子の色を赤くするなどして描いています



問合せ

(公財)栃木県スポーツ協会
総合運動公園北・中央エリア
管理事務所
〒321-0152 宇都宮市西川田4-1-1
(カンセキスタジアムとちぎ内)
TEL.028-615-0580

■物産館

話題性に富んだ商品を揃えているのが物産館です。地域の産物を中心に、野菜や工芸品などを展示販売しています。地元農家が丹精込めたこだわり野菜や県内の銘菓など宇都宮の魅力味わってもらえます。また大谷地区の特産品である大谷石を加工した工芸品も購入することができます。また大谷の歴史や文化についてのパネル展示などもあります。

大谷地区には県外からの観光客も多いため、宇都宮餃子（冷凍食品）や地場の果物を使った飲料、ファンの多いクラフトビール、大谷地下空間を利用して熟成させたワインやハムなど、栃木県・宇都宮市の魅力ある物産を揃えています。ここでは買えない商品があるのです。



疲れた体を癒やすスイーツは休憩のお供に

魅力に触れられるようにしています。こうした情報発信も、「ベルテラシェ大谷」の魅力といっていでしょう。



9月にオープンした「ベルテラシェ大谷」は、道の駅のような雰囲気です

「ベルテラシェ大谷」 大谷地区の新しい魅力



ベルテラシェ大谷

「ベルテラシェ大谷」は（株）ベルモールが経営する大谷地区の新しい観光拠点です。平和観音や大谷寺などの名所に近い立地で、9月16日にオープンしました。

「テラシェ」という名前は「テラス」と「マルシェ」を合わせた造語とのこと。テラスの開放的なイメージに、マルシェのわくわくする臨場感を重ねています。また「この場所から大谷地区を照らし続けていく」という思いも込められています。

全体の敷地面積は約4700㎡で、建築面積は約600㎡。市営駐車場を含み139台が駐車できます。

ベルテラシェ大谷は「飲食館」「物産館」「体験館」の3エリアにわかれています。それぞれの特徴を順番にご紹介します。

■飲食館

館内にはカウンター席9席、テーブル席約50席が置かれ、さらに建物外側のテラス席も約44席設置されて



物産館には地域の特産物・名産品が大集合

■体験館

大谷クラフト体験等を通じて地域の魅力を発信するエリアが「体験館」です。特産である大谷石を使い、石絵体験やカエルの色付けなど、子どもから大人まで楽しむことのできる教室を開催しています。今後は、小中学校の課外学習の場としても活用してもらうことで、地域文化の継承も企画しています。

さらに、セミナーや展示会、イベント会場としての役割も果たせるようになつており、今後の幅広い活用が期待されます。

大谷地区は平成30年に日本遺産に認定されて以来、新たな店舗が数多く開店し、活況を呈しています。ただし、人気の中心である豊かな自然の風景や奇岩などは大谷地区全体に点在しているため、同館では地域情報を積極的に発信するとともに、駐車場の整備を通じて来訪客の滞留時間を

伸ばし、より多くの



平和観音や天狗の投げ岩など代表的な大谷の景観を見渡せるテラス席。飲食だけでなく、気軽な会話にも適した場所です



飲食館はフードコート形式で、テイクアウトメニューも取り揃えています

べられないメニューも。大谷地区を観光しながらおいしさに舌鼓を打つことができるように、テイクアウトできるメニューも多数揃えています。



駐車場入口にある「ベルテラシェ大谷」のロゴマーク





写真2 / 調理道具一式が揃っているキッチンスタジオ



写真1 / プロジェクターやスクリーン完備のセミナールームは中央の仕切りで2ルームとして使用可能



緑鮮やかなガーデンエリアは開放的で、イベントなども開催可能



写真3 / カフェ&ライブラリーは、本格的なカフェであると同時に、さまざまな書物と触れ合うことができます



写真4 / 屋外ガーデンエリアには屋根付きのテラスもあります



写真5 / 一時預かり専門託児所は、施設利用者だけでなく近隣商業施設へ来た人も利用できます

「ミナテラスとちぎ」

心と心のつながりを 感じられるコミュニティ施設

10月1日にオープンした地域コミュニティ施設「ミナテラスとちぎ」は、さまざまな商業施設や飲食店などが集積している人気のスポット・宇都宮市南部のインターパークにあります。

「ミナテラスとちぎ」を開設したのは自動車販売の栃木トヨタ自動車(株)。同社はこの10月1日で創立75周年を迎えました。この施設には「これまで育ててくださった地域社会への恩返し」という思いが込められています。

コミュニティ施設というと、多くの人は公共施設を思い浮かべるのではないでしょう。しかし近年、企業の経営するコミュニティ施設が徐々に注目を集め始めています。地域社会との共生の重要性が、経営者に認知され定着しつつあることの現れでしょう。

「ミナテラス」とは聴きなれない言葉ですが、これは「みんなのテラス」と「みんなを照らす」をかけた合わせた造語です。「地域の方々にとって新しい出会いや発見、学び、交流の場となることを通じて、地

域の方々の暮らしがより心豊かになるように」というコンセプトに基づいています。施設内は大きく4エリアに分かれていますので、順番にご紹介します。

■カルチュラルテラス

カルチュラルテラスは、さまざまな「学び」のイベントに対応できるエリアです。企業向けセミナーから趣味の教室まで、さまざまなセミナーを開催できる設備が整った「セミナールーム」(写真1)、ダンスやヨガなどのレッスンができる「スタジオ」、そして料理教室やホームパーティーなど料理に関するさまざまなイベントを開催できる本格的キッチン「キッチンスタジオ」(写真2)の3つで構成されています。

■カフェ&ライブラリー

木の質感に心が癒される「カフェ&ライブラリー」。本格的なカフェスペースであると同時に、約1700冊のさまざまなジャンルの書物を自由に読むことがで

きるエリアで、フリーWi-Fiや電源も用意されています。小さいお子さまのための「キッズエリア」もあり、ファミリーで楽しむことができます。木のにくもりを感じつつ、読書をしたり、コワーキングスペースとして活用したり、さまざまな楽しみ方ができます。(写真3)

■屋外ガーデンエリア

約1200㎡のガーデンエリアは、開放感のあるスペースで、イベントの開催などさまざまな使い方ができます。今後は利用者の意見も取り入れながら、さまざまな活用をしていきたいとのこと。 (写真4)

■一時預かり専門託児所
利用者が安心して時間を過ごすことができるように、「ミナテラスとちぎ」には一時預かりの託児所が設置されています。(写真5) 託児スタッフが常駐しており、時間単位での利用が可能です。お子さまを預けることができますので、カルチャースクールなどイベントの際には、安心して参加できます。

ミナテラスとちぎは、どのエリアも少数での利用が可能で、駐車場は約40台分ありますので十分なスペースが用意されています。インターパークという好立地ですので、すでにたくさんのお問合せや予約が入っているそうです。利用はすべて事前予約制ですので、興味がある方はぜひ問い合わせしてみてくださいか。



ミナテラスとちぎ



今回ご紹介した3施設はいずれも開放感に溢れ、コロナ禍に対応した施設といえると思います。

宇都宮を彩る新しい施設に、皆さまも一度訪れてみてはいかがでしょうか。